

高校生ICT Conference 2024 in 帯広 結果報告

テーマ

今、高校生が考える生成AIとの付き合い方
- 「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考える -

高校生ICT Conference とは



2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方 & 活用法～」として大阪でスタートした「熟議」のイベントです。帯広会場は2016年度から開催し、今回で6回目となります。

今年度は開催テーマである「生成AI」の有効な活用方法について、高校生の皆さんで議論を行い、意見をまとめて発表しました。

選ばれた代表生徒は、「全国サミット」に参加、全国の代表者と熟議・提言をまとめ、サミット代表に選ばれた高校生が、関係省庁で提言を発表しました。

参加するメリット

- ◎ 他校の生徒と議論をすることで、様々な考え方や価値観に触れることができます。
- ◎ 自ら考え、意見をまとめて発表することで、思考力・判断力・表現力を鍛えることができます。
- ◎ 受験等の自己PRで参加した経験を活用できます。

参加者の声

- ・ 最初は緊張してなかなか話せませんでしたが、ファシリテーターさんのおかげもあり最後は楽しく意見を言えるようになりました。
- ・ 普段、このような話し合いは学校内で終わってしまうことが多いので、他校の方と交流しながら一緒に考えられたことは、とても新鮮でさまざまな視点から物事を考えることが出来ました。
- ・ 自分では思いつきもしなかったような発想を沢山聞けて、大変刺激になりました。
- ・ 全くの他人とひとつのものを作る経験は学校ではなかなか無いので新鮮な体験でした。 etc

in 帯広 当日の流れ

日時：令和6年10月6日(日)

場所：とかちプラザ



- 10:00～ 開場
- 10:30～ 開会、趣旨説明
- 10:45～ ICTに関する講演
アイスブレイク
- 12:00～ 休憩
- 12:45～ グループ討議
(テーマに沿って議論を行い、提言をまとめる)
- 15:30～ グループ発表 代表選考

参加校：北海道池田高等学校、
北海道浦河高等学校、
北海道帯広柏葉高等学校



高校生ICT Conference 2024 in 帯広

高校生ICT Conference 2024： <https://www.good-net.jp/ict-conference/2024/>

主催：高校生ICTカンファレンス実行委員会（構成団体）一般社団法人安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催：こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省、十勝毎日新聞社（順不同）

後援：北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校PTA連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会 他

高校生ICT Conference 2024 in 帯広

参加者インタビュー

今回は高校生ICT Conference 2024 in 帯広で代表に選出され、全国サミットに参加された 北海道立帯広柏葉高校 田守 陽翔（たもり ひなと）さんにお話を伺いました。



Q1 高校生ICT Conference 2024に参加した理由と参加した感想をお聞かせください。

参加を決めた理由は大きく2つあります。

1つは自分自身別の活動で教育におけるICT利用について探求を行ったことがあり、今後の発展が期待されるICTを用いた教育に興味があったこと、もう1つは自分で考えをまとめて議論した末に発表するという探究活動が好きだったことです。

当日は、同世代の人たちとなにか一つのことについて議論するという場が私にとって非常に楽しかったです。自分では考えつかなかったような意見や新しい視点を知ることができ、大変刺激的でした。

Q2 2024年11月に東京で開催された全国サミットはいかがでしたか。

雰囲気は地区でのサミットと良い意味で全く違いました。それぞれの地区から選ばれし人たちが集まっているだけあって、より深く、より高度で、より楽しい議論になりました。

あまりに楽しくて、1日だけなのが勿体ないと思ってしまうほど充実した時間でした。叶うならば、もう一度行きたいです。

Q3 全国サミットではどんな発言をされましたか。

「任せきりにせず、AIの仕組みを理解したうえで人間とAI、互いの良さを活かして使おう。」という、地区のみんなで考えた内容を自分なりにわかりやすいよう再構成したうえで発表しました。

地区から全国サミットへ進めるのはたった一人ですから、選ばれたからには地区のみんなの意見をしっかり伝えきろうという決意の上で発表しました。

Q4 高校生ICT Conference 2024に参加して、身に着いたことがあれば教えてください。

自分の意見をしっかり持ち、それを正確に伝える。人の意見をしっかり聞き、それらを組み合わせる。そういった「話し合い」において重要なスキルが身についたと思います。

学校でも将来社会人になってもきっと役立つであろう貴重な経験になりました。

Q5 今回のテーマである「生成AI」について、普段どのように利用していますか。また、利用するに当たり、気になる部分があれば教えてください。

勉強や日常生活でも積極的にAIを利用しています。勉強においては、英作文の採点・添削に使っています。英作文は答えが一つに定まるようなものではないので、自分一人では正確な採点ができなかったのですが、AIのおかげで自分一人で完結することができるようになりました。

日常生活においては、ネットニュースや論文を要約させてから読んだり、メールを書くときの添削に使ったりしています。

現状、「知識」に弱いAIですが、思考の正確性については非常に優秀なので、自分はそういった分野だけをAIにまかせていますが、将来的に誤情報を出さないAIが登場したらいいなと期待をしています。

Q6 今まで高校生ICT Conferenceに参加したことがない学生さんに向けて一言お願いします。

「ICT」と聞いて、なにか難しくて高度な機械の知識が必要なのかと参加を躊躇っている方もいるかもしれません。

ですが、高校生ICT Conferenceにおいてはそういったものは一切求められません。もちろん知識がある人は議論の幅が広がりますが、無いと参加できないような場所ではないです。

実際、あまりAIを使ったことがなかったり、「機械に疎いです…」といった方もたくさん参加していました。

必要なのは議論を楽しむ気持ちだと思います。

とっても楽しい場で、普通の学校生活では絶対にできないような経験ができるので、迷っているなら絶対に参加するべきだと思います。後悔は絶対しません。



田守さん、ご参加いただいたみなさん、お忙しいところありがとうございました。

本件報告書問い合わせ：北海道総合通信局 電気通信事業課 011-709-2311（内線4704）